



「平和」の対義語は「混乱」です。コロナ禍は混乱の連続でしたが、少しずつやりたいことができるようになってきました。夏祭りも、その一つです。嬉しいこと、楽しいことがあると、私は「平和だな。」「平和っていいな。」と思えます。

日々の保育を通して、子どもたちに「平和を願う心」と、「平和な社会」を手渡していけるよう尽力して参ります。

大人の元気は、子どもの笑顔

まみころ会が主催する今年1回目のイベント、夏祭りが実行委員の方々を中心に盛大に開催されました。チケットや綿菓子作り、金魚すくい、プール、テント・提灯の設営等、当日を迎えるまで、保護者の皆様が細やかに連絡を取り合い、みんなが楽しめるよう準備してくれました。

オープニングの子どもたちの太鼓の演題は「太鼓であそぼ」。担任と子どもたちとで、夏祭りに気持ちも演奏もピークを迎えるよう、取り組み、生き生きとした子どもたちの姿を見ることができました。

有志の保護者5名と職員とで叩いた太鼓は「ぶち合わせ(別名：喧嘩)太鼓」。数回の練習を重ね、勇ましい太鼓の音が響かせました。最初の一人打ちの場面で、最初は4歳児の保護者の方が叩く予定でしたが、5歳児の保護者の方と話し合っただけで交代したそうです。連絡を取り合い、子どもが嬉しくなる細やかな配慮をしていただけた事が嬉しかったです。

ラストは5人のお父さんたちが、花火の火の粉に負けず、手作りの花火台から90発もの花火を上げてくれ、子どもたちは歓声をあげて大喜びでした。そして、計15mのナイアガラの花火は、息をのむほど感動的でした。

近年コロナ禍を経て、園行事を縮小しているところがあると聞きます。しかし、私は行事を作りながら大人が一生懸命に身体を動かす姿、楽しんでいる姿を見せることは、“大人になっても、こんなに楽しいことができるんだ”と、子どもたちの憧れになります。

夏祭りの企画を話し合ったり、準備をしたりする実行委員の保護者の皆さんの顔はキラキラしていました。大人の元気は、子どもの笑顔。子どもの笑顔は大人の元気。子どもも大人もお互い支え合いながら、これからは嬉しい、楽しい、平和って素敵だな、と思える園行事を保護者の皆様と作ってまいります。

夏ならではの経験で身体づくり

連日、「災害級の暑さ」が続き、エアコンの効いた部屋で動かない生活をしたいくなります。園でも早番・遅番の時間でも室内で過ごすことが多くなっています。しかし、あまり動かず、汗をかかない生活をすると熱や老廃物が内にこもり、心身のバランスが崩れてしまうそうです。

汗腺の数は3歳頃までに決まりますが、乳幼児期は発汗機能が未熟です。そのため、熱がこもりやすく発熱したり、夏バテや熱中症になりやすかったりします。発汗機能の確立は思春期頃だそうですが、乳幼児期からいっぱい遊んで汗をかくことで、体温調節のしやすい身体になります。

そして、身体の内側から汗をかくことで、身体の中の老廃物が押し出され、病気になりにくい丈夫な身体へと変わっていきます。

また、夏に子どもたちが気持ちよく活動できるのがプールです。プール活動は、水の中にいるので汗をかかないように思われますが、実は汗をかいています。子どもたちはプールに入って、心も身体も開放して、水の感触や心地よさを味わいながら汗をかいて遊んでいます。

園では気温・湿度・風を考慮して室内・外を使って遊ぶと同時に、水分補給をこまめにして一人ひとりの体調管理に努めながら生活しています。プールでは保育をしない監視の職員をつけ、安全に気を付けています。毎年来る夏の暑さに適応できるよう、遊びの中で子どもたちの身体づくりを育んでいきたいと思えます。



【心を一つに合わせて叩いた年長児】



【保護者と職員の勇ましい音は圧巻】



【フィナーレを綺麗に飾ったナイアガラ】